



慶應義塾大学ビジネス・スクール

出店モールの決定

5

衣料品チェーンの A 社は、雪国市郊外にある東モールか西モールの、どちらかに新たに出店することを計画している。ただし懸念は、同業者である B 社と C 社の出店計画である。B 社と C 社も、A 社と同様に、東モールまたは西モールのどちらかに出店しようとしている。A 社が出店から得る利益は、どのモールに出店するかだけでなく、B 社および C 社のそれぞれと、同じモールに出店するか別のモールに出店するかによって影響を受ける。

東モールと西モールはどちらも数十店が出店する規模だが、出店する業種の偏りを防ぐために、どちらも A 社、B 社、C 社のうち最大でも 2 社までしか出店できない。どちらのモールも 3 社のどれもが出店できるが、あるモールに 3 社の中から 2 社の出店が先に決まると、残りの 1 社はそのモールには出店できなくなる。

3 社は 1 社ずつ順番に出店するモールを決めていくが、最終的に考えられる東モールと西モールへの 3 社の出店パターンは下の 6 通りである。そしてそれぞれの出店パターンにおける各社の利益は、社名の右隣のカッコ内に示されている。

	東モール	西モール
パターン 1	A 社 (50)	B 社 (30)、C 社 (30)
パターン 2	B 社 (70)	A 社 (20)、C 社 (20)
パターン 3	C 社 (10)	A 社 (40)、B 社 (60)
パターン 4	B 社 (35)、C 社 (35)	A 社 (40)
パターン 5	A 社 (25)、C 社 (25)	B 社 (60)
パターン 6	A 社 (45)、B 社 (65)	C 社 (0)

10

15

20

25

30

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

これから各社が出店先を決める事になるが、A社は現時点では希望すれば、3社の中で最初に
出店モールを決めることができる。しかし現時点での決定を希望しなければ、他の2社が決めた
後で最後に出店モールを決めることになる。

A社が最初に決めた場合には、2番目にB社で3番目にC社、あるいは、2番目にC社で3番
5 目にB社の、どちらかの順番で出店モールを決めることになる。B社とC社のどちらが先に決める
かは、A社が最初に決めるときには分からず、B社とC社のどちらが先に決めることになるか
は等しい確率と考えられる。

A社が現時点での決定を希望しない場合は、最初にB社で2番目にC社、あるいは、最初にC
10 社で2番目にB社の、どちらかの順番で出店モールを決めることになる。B社とC社のどちらが
先に決めるかは、現時点では分からず、B社とC社のどちらが先に決めるかは等しい確率と考え
られる。

3社とも、一度決めた出店モールを変えることはできない。先に出店モールを決める者は、後
から決める者の出店モールを知ることはできない（予想することはできる）。そして後から決める
者は、先に決めた者の出店モールを知ってから選択をする。

A社、B社、C社の意思決定者は、ともに6つのパターンに示された、自社の利益の最大化を図っ
15 ている。パターンごとに示された各社の利益は、最終的な出店パターンだけによって定まり、出
店が決まる順番には影響を受けない。

A社、B社、C社の意思決定者は、この文章に書かれた情報を、互いに共通の認識としている
ことを理解している。

20 以上

25

30

sample

sample

sample

sample

sam

不許複製

慶應義塾大学ビジネス・スクール

共立 2012.2 PDF